

社会人としてやっていいこと・いけないこと



ビジネス社会の常識・良識・非常識を例に、周囲に認められ、良好な人間関係を保ち、職場の風土に沿った考え方や働き方をする、お客様から信頼される「できる新人」に育てるために、人財育成コンサルタントより解説をいただきました。

新社会人に良くある例

①始業ギリギリでも間に合ったと言える？②学生時代の言葉を使っても大丈夫？③気分が乗らない日はどうしたら良い？④仕事は自分流にやっても良い？⑤就業規則にないルールは気にしない？等を例に具体的対応策を解説。

モチベーションアップの指導法

「傾聴」すること。ただ耳を傾ける（受け取る）ことで、感情の鎮静化（気持ちの浄化作用）、思考の正常化、理性的問題解決、記憶へのアクセス、現実の把握、明晰さ、分別、身体のコントロール、自己治癒力、ストレスへの抵抗力、共感ある人間関係、信頼のあるパートナーシップ、エンパワーメント〔力付け・意図の明確化・自主性・創造性・個性・能力〕等々、様々な効果が引き出される。

承認とは

相手の存在を認め、肯定的な違い（成果や成長）を言葉にして相手に伝えること。他者と比べた評価ではなく、存在そのもの、行動、成果を認める。承認の目的は相手のモチベーションを上げ、行動を継続させること。例えば、名前を呼ぶ、挨拶をする、コミュニケーションする、その人の成長を認める、その人の考えや感情を認める、その人の努力や姿勢を認める、など。承認の効果には、①組織のパフォーマンス向上、②モチベーションのアップ、③離職の抑制、④メンタルヘルスの向上、⑤不祥事の抑制、などがある。人間の本質的な欲求で一番求めているものが「承認」である。